

収穫訪問レポート

例年より 10 日前倒しで始まった収穫はただいま佳境、ハチの巣状態の生産者を 10 月 9 日に訪ねた。

醸造責任者 Jose Javier 氏が語る。

「2020 年は珍しく年初に積雪があり、春まで雨が多く夏は乾燥し暑さが続いて理想的な収穫を迎えた。他の地方同様、収穫期に入ってから雨でベト病の拡散が心配されたが、幸い果実への影響はなく同社のセオリーに沿った自然派栽培を踏襲できたのは朗報。」

自社畑は約 90ha、200 の小畑に分散している。その多くは前世紀終盤に放置された畑を買い取り再生したものでどれも高樹齢。ちなみに DO.Calatayud では樹齢 35 年以上を高樹齢 (Cepas Viejas) と呼称可能。

写真 1～7・動画

当日収穫中の畑二か所の最初に訪れた畑 Parre。2ha 弱、標高 950M。樹齢 80 年毎年収穫に駆け付けてくれるブルガリア人 15 名での手摘み作業。

Garnacha に混ざる赤い葉の樹は土着品種の Bobal Provechon。

写真 8

ここから臨む畑 Timano がハート型であることを発見！（写真中央上）

写真 9

土壤断面図。表土 20cm の下は厚いストレート土壌(ピサーラ)

写真 10～12

収穫中もう一か所、Cerro de Cuco 標高 900M、主に Garnacha。樹齢 45 年

手摘みされたブドウはワイナリーに運ばれ機械選別後、畑の特性別に 35 個 (5000～11000IL) のタンクで発酵が進んでいる。

その他写真

13 秋晴れの空に映える当社の畑群を見下ろし守るクロス

14 赤土から黄土、グレー土とグラデーショナルな土壌変化が見られる畑 La Balsa de Maria del Luz。それぞれのブドウを試食しその味覚の差から異なるテロアールの主張を感じる。

15 Pie Franco (接木をしていない株) フィロキセラの影響を受けてない当社で唯一の畑、推定樹齢 100 年以上

収穫高推移	2017年	800Kg/Ha
	2018年	1100 Kg./Ha
	2019年	1500Kg./Ha
	2020年	2000Kg/Ha 予測

Bodega Sommos Garnacha のチャレンジ

1. 新たに Garnacha Blanca を植え付け
2. 自社酵母での醸造をスタート (約 50%)
3. Tina と呼ばれる卵型のコンクリートタンクでの熟成
ミクロの通気性があり、素材の香りが移らないことでブドウ特有のアロマやテロアールの特徴、ミネラル感が際立つ。Lamin2017 では樽熟と Tina 熟 50% ずつでブレンド。
4. シングルヴィンヤード・ワインの開発

等々、Bodega Sommos Garnacha の進化が止まらない！